

地方都市中心市街地における滞在環境が来街者の過ごし方に与える影響に関する研究

秋田大学 学生会員 ○中村 剣多
 秋田大学大学院 正会員 鈴木 雄
 秋田大学大学院 正会員 日野 智

1. はじめに

近年、高齢者や若者の外出離れが進む中で、自宅以外での滞在やその環境を整備することが重要だと捉えられている。自宅以外で有意義に時間を使える場所が無いことから、長時間パチンコ店やゲームセンターで過ごす高齢者が存在することも社会問題とされている。秋田市ではJR秋田駅周辺のデパート内にあったまちの駅が閉鎖され、高齢者の居場所が減少したと考えられる。自宅以外に快適な滞在環境を有することは、外出回数の増加や時間を有意義に使うことに加え、その場所でのコミュニティーの形成などにも寄与する。本研究では、個人がゆったり過ごせる場所を快適な滞在環境として捉えた。自宅周辺や中心市街地内にそのような環境があることによる効果を把握し、その必要性を示すことを目的とする。また、必要とされる滞在環境の要素についても考察する。

2. 意識調査の概要

本研究では、自宅以外での滞在環境の効果や必要性を把握するために意識調査を実施した。意識調査では、自宅以外でゆとり過ごすことのできる場所の有無や、その場所で達成可能なことなどについて質問している。調査は平成26年12月9日に秋田市内の4地域で投函配布・郵送回収方式で実施した。調査表は600世帯に1200票を配布し、189世帯から241票を回収した。

3. ゆったり過ごせる場所の有無と生活の満足度

普段の生活の範囲と秋田市の中心市街地である秋田駅周辺地域内で「ゆったり過ごせる場所」があるかどうかを質問した結果を図1に示す。生活の範囲ではゆったり過ごせる場所が1ヶ所以上ある被験者が約50%であるのに対し、中心市街地内では約40%とやや低い値となっている。

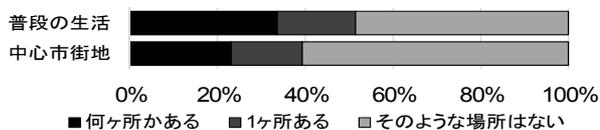


図1 ゆったりできる場所の有無

次に、ゆったり過ごせる場所が足りていると感じているかどうかを質問した(図2)。普段過ごしている場所では60%以上の被験者が「十分に足りている、足りている」と回答しているのに対し、中心市街地内では約20%と低い値である。

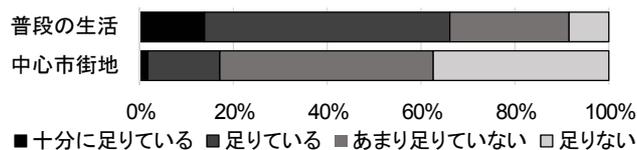


図2 ゆったり過ごせる場所の過不足

普段の生活で一番ゆったり過ごせる場所として挙げられたものを図3に示す。レストランやカフェ、入浴施設などを挙げる被験者が多い。中心市街地内でゆったり過ごせる場所も自由記入形式で質問している。施設内のベンチや公園、カフェでゆったり過ごせるとした被験者が多い。

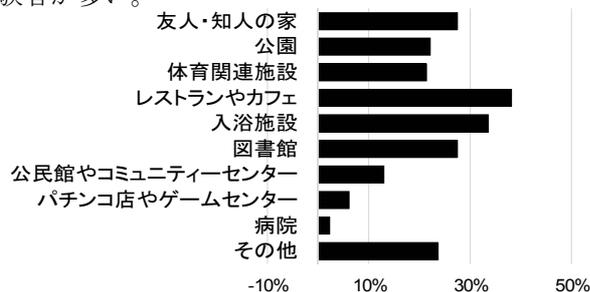


図3 普段の生活でゆったり過ごせる場所

普段の生活でゆったり過ごせる場所の数と生活全体に対する満足度の関係を図4に示す。普段ゆったり過ごせる場所が「何ヶ所かある」「1ヶ所ある」と回答した被験者では普段の生活の満足度が「満足」「やや満足」とした回答が約70%となった。一方、普段ゆったり過ごせる場所がない被験者では約55%と少ない。すなわち、ゆったり過ごせる場所の有無が生活の満足度に影響していると考えられる。

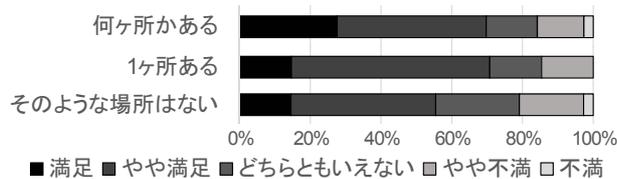


図4 ゆったり過ごせる場所の数と生活の満足度

キーワード：中心市街地、滞在、生活の質、高齢化、意識調査分析

連絡先：〒010-8502 秋田県秋田市手形学園町1-1 TEL (018)-889-2767 FAX (018)-889-2975

次に、普段の生活の各項目の満足度を図5に示す。「普段の生活で外出できる範囲」や「自由に使うことのできる時間」についての満足度が高い。一方、「町内活動や地域の祭りなど」の満足度は低くなっている。また、外的基準を生活全体に対する満足度、アイテムを生活の各項目の満足度とした数量化理論II類による分析を行った。各項目のレンジ値を図6に示す。レンジ値をみると「普段の生活で外出できる範囲」に次いで「家族以外の人との会話の回数」が高くなっている。これらの項目が生活全体の満足度に与える影響が大きいことがわかる。

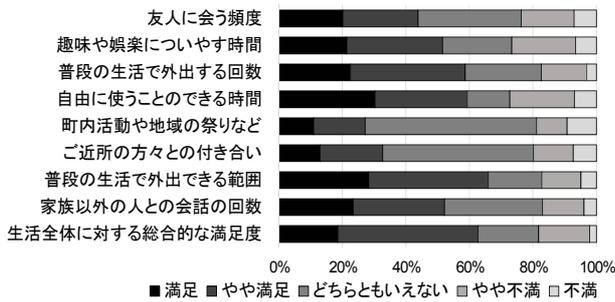


図5 普段の生活の各項目の満足度

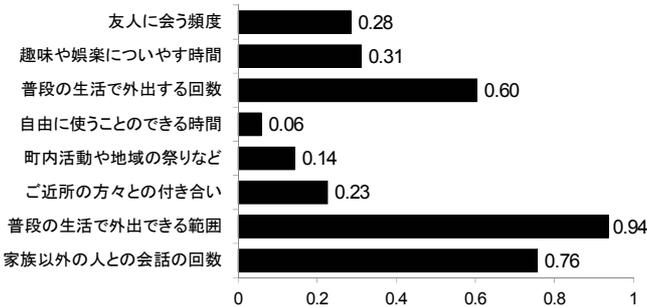


図6 数量化理論II類におけるレンジ値

4. ゆったり過ごせる場所の存在による効果

中心市街地内でゆったり過ごせる場所の数と中心市街地へ訪問した際に期待できることとの関係を図7に示す。ゆったり過ごせる場所が多くある被験者の方が多くの項目で期待できると回答している。しかし、「多くの人と出会うこと」については、ゆったり過ごせる場所の数との関係性はみられない。

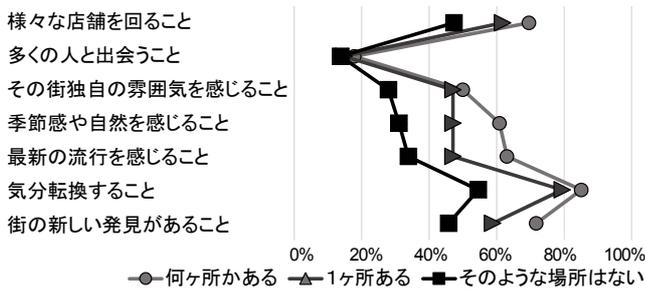


図7 ゆったり過ごせる場所の数と中心市街地への期待感

中心市街地において、ゆったり過ごせる場所を利用することで考えられることを図8に示す。「新しい友達や知り合いができる」「その場所に行けば誰かがいると思える」など、人との関わりに関する項目は達成できていないと回答する被験者が多いことがわかる。

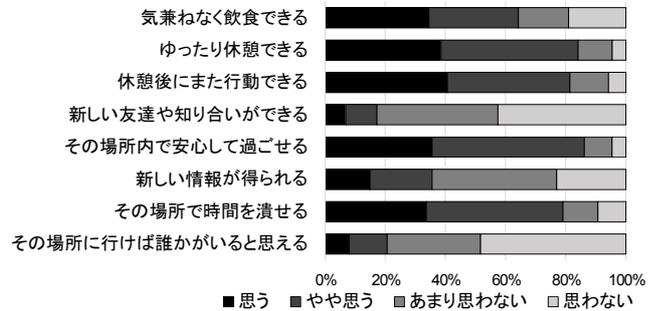


図8 ゆったり過ごせる場所を利用することで効果

中心市街地に対して「多くの人と出会うこと」に期待している被験者とそうでない被験者とで、ゆったり過ごせる場所に必要とされる条件の比較を行った(図9)。「自分と同じ様な人が集まっていること」「その場所に人がたくさんいてにぎやかなこと」の項目に差がみられた。これらの条件を満たす場所を創出することで多くの人と出会うことが達成されることが考えられる。

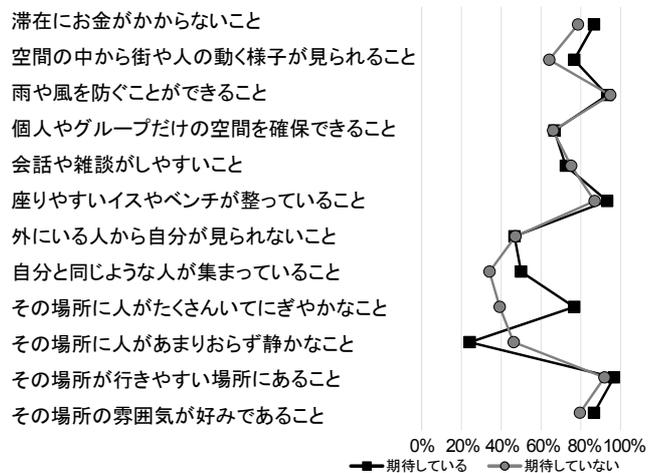


図9 ゆったり過ごせる場所に必要とされる条件

5. おわりに

本研究の分析により、ゆったり過ごせる場所の存在が生活の満足度に影響していることが明らかとなった。また、家族以外の人との会話の回数が生活の満足度に与える影響が大きいにもかかわらず、中心市街地内のゆったり過ごせる場所であっても、多くの人と出会うことや新しい友達ができることは達成されていない被験者が多い。これらを達成させるためには、人の流れが感じられ、にぎわいのある場所にゆったりと過ごせる空間を創出することが必要性であることが示された。